

令和2年3月12日

# 令和元年度 自己点検評価報告書

学校法人中村学園  
静岡福祉医療専門学校  
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施しました。なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

1. 教育理念・目標	
【現状と問題点】	<p>&lt;建学の精神、校訓、教育方針の徹底&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神を根本の理念とし、挨拶を基調とした「全人教育」を徹底。</li> <li>・本学オフィシャルサイト（ウェブ）、ホームルーム・教員室に「建学の精神」「校訓」を掲示。また各学科の教育方針を当該クラスの掲示板上に明示している。</li> <li>・Society 5.0が矢継ぎ早に具現化される時代。そこで求められる人材養成のため、年2回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を実施。その内容を教育に反映している。</li> </ul> <p>&lt;教育理念の具現化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を基調とする全人教育の成果もあり、共感性豊かで、他者を思いやる大切さが日常生活でもうかがえるようになってきたと感じられる。</li> <li>・‘挨拶を大切にすること、他人との関わりには心を込めること’を1年通して指導してきた。言ってみれば簡単ではあるが、誰もがすぐにできることではなく、また、このような姿勢を維持することは指導者の意識改革も必要になるので来年度も継続していきたい。</li> <li>・入学選考の面接、ステップアップレッスンの段階から学生が常に振り返る原点として位置づけており、とりわけ実習や就職活動の事前指導には学生が自ら言葉と行動で示すことができるよう指導した。</li> <li>・校訓と建学の精神に基づき、「挨拶を基調とした全人教育」「How to 人間ではなく Why 人間の育成」を常に念頭に置いた教育に取り組んできた。一方、介護福祉士のカリキュラム改正に伴い、求められる介護人材のあり方も変容してきており、時代に即した福祉・介護教育のあり方を検討していかなくてはならない。</li> <li>・実習報告会、ケアスタディ発表会を通して「介護福祉士とは何か」について、介護福祉士倫理綱領を基本とし習得することができたと感じられる。</li> <li>・業界との連携（教育課程編成委員会、各種情報交換会、実習巡回時の情報交換、卒業生を囲む会等）により業界ニーズを把握し、学生の希望とのギャップを狭めるよう努めている。</li> </ul>
【改善のための方策】	<p>&lt;建学の精神、校訓、教育方針の徹底&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身が学生指導指針である「学生の手引き」を十分理解した上で教育活動を行う。</li> </ul>

	<p>&lt;教育理念の具現化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内においても教員と学生相互に丁寧なコミュニケーションが図れるようにしていく。</li> <li>・挨拶励行が意識しなくとも常時できるように指導していきたい。最終学年では「社会人として身に付けておきたい態度」の再確認と自分自身の振り返りを行わせ、社会人に向けての準備をさせたい。</li> <li>・新入学予定者へのステップアップレッスンにおいては、引きつづき最重要事項として指導していく。</li> <li>・常に校訓と建学の精神が、教育理念の中心であることはいままでもないが、「介護分野における中核的人材の育成」という介護福祉士のカリキュラム改正と並行して、「すべての分野に精通した総合的力量を備えた相談援助専門職の育成」という社会福祉士のカリキュラム改正にも対応した教育を推し進めていく。</li> <li>・各学科、学年を超越して実習終了後に報告会を行い、振り返りの時間を十分にとり、課題への認識を高めていく。学校生活における目標の明確化と、将来像具現化への指導を徹底する。</li> <li>・実習や就職活動など、学外の活動こそが本学の名前を背負っている自覚を高める学生指導を行う。</li> </ul>
<p>2. 教育活動</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p>&lt;教育課程の編成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会を年度内2回実施。実務で求められるスキル、人間力、各業界の動向に合わせ、学科・コース別に教育課程へのアドバイスを頂き、教育活動全般に反映することができた。</li> <li>・シラバス、教材についての電子化を引き続き推進。過去の教材もそのまま蓄積され、学生が課外で活用するなどメリットが増えている。</li> </ul> <p>&lt;留学生への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生においては、ひとりひとりのレベルに合わせた指導をすることによって、行動、言動に自信が持てるようになってきたと感じる。</li> <li>・授業時間以外は留学生同士が母国語で会話をする場面がみられるため、学内においては日本語でコミュニケーションをとるよう指導した。</li> </ul> <p>&lt;産学連携教育プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・シラバス・講師派遣等の面では、今年度も引き続き各分野の施設・病院・幼稚園等、各種団体からバックアップしていただいたため、より実践的な授業内容となり、学生も熱心に取組むことができた。</li> <li>・静岡県視能訓練士の会に学生も参加することができ、研修の参加及び県内の視能訓練士と交流することができた。</li> </ul> <p>&lt;社会人基礎力の向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団へのアプローチとして、年間2回の学科内アクティブラーニングを行った。学年を縦割りにし、テーマに沿って話し合うことで、意見を持つこと、考えること、伝えること、他者の価値観に触れることが出来た。学生からも、貴重な時間になったという意見が多く出ており、学生自身が自分の成長につながると評価していた。</li> </ul>

	<p>&lt;教育活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導を重要視し、学生個々の能力を見極めながら指導を行った。問題を抱える学生については、個別の指導シートを作成し、何が課題か、その解決方法を見出すため活用した。自己管理を促すツールとしては効果がみられたが、学びに対する主体性にはつながらなかったと評価する。</li> <li>・留学生が共に学ぶことにより、インクルーシブな教育がなされるようになってきている。</li> <li>・今年度は授業アンケートを後期終了後に実施した。学生が回答しやすいようにウェブ上にアンケートシステムを構築しているため、アンケート結果より、教員個々で授業点検・評価・改善を行った。</li> <li>・実習の振り返りを大切にし、個人面談を繰り返し行った。学生自身が気づけていない課題を伝える事で、次の課題が明確になった。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>&lt;教育課程の編成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各期実習を節目にした PDCA サイクルに基づく徹底した個別指導を重視し、学生自らが「育つ自分」を自覚できる教育に取り組んでいく。</li> </ul> <p>&lt;留学生への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生に関しては日本語能力の向上にも繋がるので、学内においては母国語を使用せず、日本語でコミュニケーションをとるよう引き続き指導する。</li> <li>・来年度からは、留学生の国籍も多岐に渡るため、学科、学年間を越えて留学生指導にあたりるとともに、日本人学生及び教職員とコミュニケーションを取る機会を定期的に作り、文化交流、友好の絆を深めたい。</li> </ul> <p>&lt;産学連携教育プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種のボランティア活動・地域活動は、福祉・介護、保育・幼児教育という分野に留まらず、視能訓練士や電子情報の分野とも連携した活動を見据えて開拓していきたい。</li> <li>・様々なグループワークや産学連携の実習などを今年度以上に増やしていきたい、学生が人前で話す場面を増やしていきたい。</li> </ul> <p>&lt;社会人基礎力の向上&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団へのアプローチとして、8Fホールを使用してのアクティブラーニングを来年度も行いたい。</li> </ul> <p>&lt;教育活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導も大切にし、個々の能力を見極めブラッシュアップしたい。</li> <li>・これまで以上に基礎学力の差や家庭環境などこれまでの環境にも配慮しながら、ひとりひとりの学生のレベルに合わせた指導を心掛ける。</li> <li>・新型コロナウイルス等で世の中が偏見を持つようになってきているため、こういう時こそ福祉のインクルーシブな教育を身につけさせたい。</li> <li>・学内での座学や演習においても、アクティブラーニングの手法を駆使し、参加型の授業のあり方を追求していく。</li> </ul>
<p>3. 学生受入れ</p>	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<p>&lt;学生募集関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学予定者数は前年度比増ではあるものの、目標数には遠い結果となった。特に少ない介護、昨年比大幅減の音響について、次年度の売り出し方等の工夫検討が必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子の学生が制作した作品を YouTube 等で発信することで学科の活動内容の見える化を図ることができた。学生募集に繋がるより効果的な使い方をさらに考えたい。</li> <li>・DMやオープンキャンパス参加者へのお礼状等、様々な形で個人へのアプローチ回数を増やすことができた。高校への活動と同様、個人へのアプローチを継続的に増やしていきたい。</li> <li>・学科ごと広報支援担当教員を置くことができ、これまでと異なる視点からの企画内容をオープンキャンパス等で行うことができた。</li> <li>・オープンキャンパス、介護等のイベント時、介護の面白さ、素晴らしさ、やりがい等々を教員から発信するだけでなく、在学生、卒業生から発信することができた。</li> <li>・学生や卒業生の協力を受け、充実した内容のオープンキャンパスができた。学習内容、生活支援など、環境整備にも取り組んでいる。</li> </ul> <p>&lt;高等学校等の連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉・保育の分野において、通信制高校へ1年間を通し継続した出前授業を今年度より行うことができた。</li> <li>・全日制高校における活動としては、単発の出張授業について数件実施できたものの、継続的な案件については実施することができなかった。シンパ校を増やす意味合いも含め、次年度も継続的に進めたい。</li> </ul> <p>&lt;留学生関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の日本語学校との連携を継続。留学生卒業後の日本語教育について情報交換している。</li> <li>・基本的に留学生の進路決定に関する動きは遅く、例年11月以降に動き始めるが、今年度はまとまった動きが見られなかったため、早い段階からの日本語学校への状況確認が必要。</li> <li>・留学生の受入について、昨年度の日本語学校からの受入実績に伴い、先方から紹介していただける件数は増えた。ただ、日本語レベルが伴わない方もみられた。</li> <li>・留学生の国籍も多岐にわたってきたため、受け入れについても教員がどのような授業、準備をしたら良いか（学習内容、生活支援などにおける環境整備）を検討していく必要があると考えられる。</li> <li>・今年度は留学生が留学生の対応を手伝ってくれて、いい流れができた。オープンキャンパスでも留学生を意識した内容に工夫した。</li> </ul> <p>&lt;生涯学習関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人静岡県職業教育振興会の職業体験イベントに参加、保育・医療分野での体験（小麦粉粘土づくり、視力検査）をするなど、多数の来場者でにぎわった。特に、視能訓練士という資格で何ができるのか、やりがい等も含めて学生の協力のもと発信することができた。</li> <li>・県委託事業である離職者訓練「介護事務・介護初任者研修科」「介護初任者研修科」を受託。年間2コースを実施し、介護技術の習得および介護職員初任者研修及びケアクラークの資格取得に結び付けることができた。また就職活動の支援も十分に行うことができた。</li> </ul>
--	---

<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>&lt;学生募集関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集定員の7割以上の入学予定者を達成すべく、オープンキャンパス体験内容の体系化、来校者への個別フォロー体制の強化、参加者への配布物の工夫等、より興味を持ってもらえる機会を増やすこと、興味を持って来校した方を満足させて出願に繋げることを基本に活動したい。</li> <li>・高校が生徒主体の進路選択を勧めているところが多いため、個人へのアプローチを強化したい。今年度実施したDMの他、SNSやYouTube等の活用方法を今以上に検討したい。</li> <li>・時代や社会の要請に応えられる広報活動のあり方を再検討し、定員の8割以上の新入学予定者を確保できるようにしていく。引き続き、学生や卒業生の協力を得つつ、オープンキャンパスの企画内容も創意工夫し、出前授業も積極的にやっていく。</li> <li>・オープンキャンパスにおいて、スカラシップ奨学生を中心に学生を上手に活用し、雰囲気作りを行いたい。</li> <li>・後期にかけて、オープンキャンパスの見せ方について工夫を凝らした。参加者が理解しやすいように、視覚の情報を活用したこと、また、付帯施設である保育所に協力いただき、保育現場に参加してもらい、仕事のイメージ化を進めた。アンケート結果から、概ね好評だったと感じている。</li> <li>・1年制課程への入学条件である履修科目を取得できずに入学できなかった方達に継続的に連絡を取るようにし、出願につなげていきたい。</li> <li>・学生募集に直接結び付きそうなオープンキャンパス及びイベントを今後も企画していくためにも、広報と教育部の連携を密にしていきたい。</li> </ul> <p>&lt;留学生関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規開講予定の学科との棲み分けとして、必要に応じて入学資格の日本語レベル設定を上げる検討を行いたい。また、優秀な方がどの時期に動き始めるか、日本語学校で情報収集を早めに行いたい。</li> </ul> <p>&lt;生涯学習関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習等の開拓を進めていくと同時に、産学連携の具体的な成果や卒業生の活躍等を外部へアピールできるよりよい方法を検討したい。</li> <li>・初任者研修などでも、外国人を対象にした講座を取り入れていく。</li> </ul>
<p>4. 教職員組織・研修</p>	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<p>&lt;教職員組織&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の指導については、教員間の組織的な対応により、学生が抱える問題の早期発見・早期対応に努めており、学生生活での支障を取り除いてきたが、再実習を行う学生や退学に至る学生が出してしまい、大きな課題を残した。</li> <li>・課題を抱えた学生、障害のある学生、留学生に関しての指導、関わりについては、統一化が図れるとよりよい学生指導につながると考えられる。</li> <li>・各学科長が不在のことも多く、教員間の連携が密にできない場面もあった。</li> <li>・担任、副担任の連携、科内教員の報告、連絡、相談の体系化が明確なため、情報共有、学生指導がスムーズにできていると感じられる。</li> <li>・組織作りにおいては、教員のコンセンサスを取り、学生指導を円滑にかつ目標を見失わないよう心掛けた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講座に関して、授業は数人の教員で担当したが、企画・提案・書類・申請等は一人で行っていたため、教員間で共通理解できていない点もあり、反省点として残った。</li> </ul> <p>&lt;専任教員の研修等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員個々の研修は当初の計画は予定通り参加し、個々にスキルの向上を目指し参加した。また、各分野の情報を共有することで、自分の専門外の知識も得ることができ、視野が広がった。</li> <li>・各教員が自らのテーマに即した研修を行ってきたが、研修報告の機会をあまり設けることができず、成果の共有には課題を残した。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>&lt;教職員組織&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、担任に偏らない教員間の組織的対応により、学生が抱える問題の早期発見・早期対応に努め、退学といった最悪の事態に至らないようにしていく。</li> <li>・現場の実習指導では卒業生にかなりお世話になったので、今年も卒業生の皆さんと連絡を取りながら、職業実践専門課程を活かしていきたい。</li> <li>・学科長不在のことも多いが、メールなどの連絡手段を多用し、組織的に業務が滞ることがないように行っていきたい。</li> <li>・今後も学科会議の機会を増やし、学科の教員全員で学生の情報交換をしていきたい。情報交換を行うことで、それぞれの学生に合った指導を検討し、指導・対応できると考える。</li> </ul> <p>&lt;専任教員の研修等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修報告によって成果を全教員で共有するとともに、学内の課題に対応した研修の企画・立案を行っていきたい。</li> <li>・研修に関しては、年間を通した研修のテーマと研修の予定を立てて、計画的な研修の実施に心掛け、定期的な研修報告の機会も設けていく。</li> <li>・教育力、専門性の両面について、各学科の特性に合わせ、計画性をもった研修計画と実施、そのまとめと学内での情報共有を行っていく。</li> </ul>
<p>5. 施設・設備等</p>	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<p>&lt;施設・設備関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護機器は時代のニーズに合わせていく必要があると考える。</li> <li>・介護機器に関しては、開学時から使用している設備も多く、学生からも改善の要望が出てきている。</li> <li>・開業医より眼底撮影カメラや視力検査装置を寄贈していただき、学内実習に活かすことができた。</li> <li>・福祉、医療、子ども分野もICTが欠かせないことから、学内インターネット環境が整備されている教室を活用しているが、パソコン実習室が2教室あるのにもかかわらず、社会人講座等で終日使用されているなど、使用できる時間がかかなり限られていた。</li> </ul> <p>&lt;環境整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども心理学科においては、学科の特徴を学内環境に大いに反映することができた。特に壁面の工夫は、学生が現場に出た時の参考になるよう教員が工夫を凝らし作成した。</li> </ul>

	<p>また、学生にも協力してもらい、壁面制作を行ったが、作り方だけでなく見せ方の工夫、色味の工夫など学ぶことが多かったと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン実習室のコンピュータが授業中にアップデート開始になる、ネットワークが切断されるなどし、授業を中断せざるを得ないこともあった。実習室において、定期的な環境整備が必要だと感じる。</li> <li>・社会人講座を開講するにあたり、共通で使用している実習室、学生が使用していない教室・イベントに当てはまらない教室の確保をする際、教員の勤務状況(授業・巡回・外勤等)の把握・調整も併せて必要だと痛感した。</li> <li>・例年、外部実習前は実習室、ケアスタディ・卒業研究発表会前はパソコン室の使用が放課後も立て込んだが、学科・クラスの柔軟な調整により、トラブルなどもなくそれぞれ学生の課題に取り組むことができた。</li> <li>・介護実習室の活用は授業だけでなく、放課後の自主練も非常に積極的である。ホーム教室においては、学習目標を掲示することにより、日々の学習が明確になり勉学に集中できていると感じられる。今後も引き続きこの状態が継続できるような指導に心がけていく必要があると感じられる。</li> <li>・視能訓練士学科においては、開講初の県の指導調査が施行されたため、改めて書類や講義方法など、教員間で再確認することができた。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>&lt;施設・設備関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習室の施設・設備も20年程度経過し、老朽化が目立つとともに、実際に施設にて活用しているものとの乖離が出てきている。予算規模からも一朝一夕に転換ができるものではないが、学内の施設・設備を安全かつ有効に活用できるよう、優先順位を明確にし、中長期的な計画を立てていく。</li> <li>・学生が増員しても演習がスムーズに行えるような機器の配置を考えたい。</li> <li>・両館間の内線の際、電話通信が途切れてしまうことが多々あるため、電話交換機の整備が必要である。</li> </ul> <p>&lt;環境整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度、実習室における環境整備をするよう努めたい。</li> <li>・今年度のような突発的・長期化する感染症にも対応できるように、対策として、手指消毒液、マスク、使い捨て手袋等、これまでの災害時用の保存水、乾パン、簡易トイレ等以外にも備蓄物等を検討していきたい。</li> <li>・来年度も美化と併せて、学科の特性に合わせた環境づくりに取り組みたい。</li> <li>・学生の臨地実習日誌から、今年度の実習施設の指導を解析した結果を参考にした校内演習を実施できるよう、環境整備をしたい。</li> <li>・パソコン実習室は他学科、社会人と共有するため、計画的な活用を調整する。</li> </ul>
<p>6. 学生生活支援</p>	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<p>&lt;経済的支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生、新入生とも高等教育修学支援新制度に該当する学生に対する指導を行えるよう、制度の詳細を教員が十分理解した。在校生への対応を進めている。</li> <li>・本学独自の奨学金制度について、制度内容やそのシステム等、学生募集の段階から紹介するとともに、入学後も対象となる学生には引き続き指導して</li> </ul>

	<p>いる。また日本学生支援機構等、公的な奨学金制度については専任を設け、入学後速やかに希望学生を対象に説明会を実施。進級・卒業後も適切な指導を行い、スムーズに手続きが進められるようにしている。</p> <p>&lt;学生生活支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割、教材費の事前連絡などはスケジュール通り行うことができた。</li> <li>・学生会を組織。学園祭・文化祭（学校関係者のみでの実施）、スポーツ大会、町内清掃活動、謝恩会（今年度は開催を断念）等の企画・運営、管理を通じて学生相互の絆を深めている。</li> <li>・友人関係の悩みを抱えていたり、メンタル面が弱かったりする学生が非常に多いため、面談を行うだけでなく、時間を作り、学生と時間を共有し安定した学生生活を送れるような支援を行うことを心がけている。</li> <li>・学生生活の節目における個別面談と教員間の組織的対応を重視し、学生生活の支障は取り除いてはきたが、学生が抱える問題は経済的にも心理的にも複雑化しており、今年度学校全体で4名の退学者を出すという事態に至っている。</li> <li>・臨地実習を巡回にてサポートしてきたが、問題が起きても報告しない学生がおり、対応が遅れてしまった。</li> <li>・就活も条件の多い学生ほど積極的に行動することができず、まずは自己分析・把握をするべきであることをはっきり伝える必要があった。</li> <li>・24時間対応保険及び正課中を対象とした保険に加入して、万が一の場合に対処可能としている。</li> <li>・年に1度、健康診断を実施している。</li> <li>・感染症（インフルエンザ等）に対しては、日頃から衛生面の対応、健康管理について指導を徹底している。また罹患した際の登校許可についてはルールを改正した。</li> </ul> <p>&lt;留学生支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生においては、経済状況のマネジメントまで行った。よって、退学希望や、授業料等困難学生が出なかったと考えられる。今後も同様な支援を行う必要性があると感じられる。</li> <li>・留学生においては、学年・学科間を超えた対応を心掛け、無事、卒業・進級に結び付けることができた。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>&lt;経済的支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学生及び在校生で新たに支援を希望する者に対しても、スムーズに対応できるように支援していきたい。</li> </ul> <p>&lt;学生生活支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学期の冒頭や最期、実習の前後といった学生生活の節目における個別面談、保護者との綿密な連絡を重視して、教員間で学生生活の支障に関する情報を共有し、組織的な対応を行っていく。対応に困難を来すケースに関しての教員研修も適宜計画していく。</li> <li>・授業、演習、実習に加え、生活支援の面からも、木目細かな個別指導に組織的に取り組み、学生生活に躓きがないようにする。特に退学者を出さないよう、保護者とも密に連絡を取り合える関係を構築していく。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習や就職先について、早めに指導・相談に乗る。</li> <li>・学生の学力差や技術差を把握し、補講期間を有効利用する。</li> <li>・遅刻理由の殆どが体調不良であるため、単純に時間厳守を指導するだけでなく、体調管理に関する指導を行う。</li> <li>・「無料職業紹介事業関係業務取扱要領」等の改正に対応した業務を推進し、就職活動関連イベント情報を集約し、SNS等で早期に周知する。</li> <li>・挨拶の励行、礼儀を弁えた対応ができるよう指導する等、学生の手引きに則った指導を心掛けるだけでなく、学生として相応しい身だしなみについて、これまで以上に徹底した指導をする。</li> <li>・個人面談において、教員が学生を尊重し話を聞く、対話することを大切にしたい。</li> <li>・就活は『縁』であり『タイミング』も大切なので、しっかり準備できるように指導する。</li> </ul> <p>&lt;留学生支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生への対応について担当教員だけでなく、教職員間でも情報を共有して学校全体で関わっていききたい。</li> </ul>
<p>7. 管理・運営</p>	
<p>【現状と問題点】</p>	<p>&lt;修学支援新制度関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学支援新制度の高等教育機関として無事認定された。</li> </ul> <p>&lt;学籍関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の成績・学生指導記録・出席簿等の整理を行った。</li> </ul> <p>&lt;防災関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練を行い、防災意識を高めると共に、万が一の発災に備えている。(9月は地震発生、12月は火災発生を前提とした訓練)</li> </ul> <p>&lt;セキュリティー関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティーソフトウェアのアカウントを更新した。</li> <li>・平成29年5月末から施行された改正個人情報保護法について教職員全員に周知・徹底し、遵守している。個人情報にあたるデータは全て暗号化して管理している。</li> </ul>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>&lt;修学支援新制度関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学支援新制度が開始されるため、適切かつ円滑な運用ができるよう関係者で密に連絡を取って学生指導していききたい。</li> </ul> <p>&lt;防災関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Jアラート、火災・地震を想定した危機管理マニュアルを整備しているが、今回大規模な影響を及ぼしている新型ウイルス等にも対応できるよう、内容を刷新する。</li> </ul> <p>&lt;セキュリティー関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法の遵守について、具体的な手順の教示を行う等、引き続き徹底する。</li> <li>・セキュリティーソフトウェア更新(継続)。</li> </ul> <p>&lt;環境整備等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室及び共用部分について、日頃から整理整頓、清潔を保つ。</li> </ul>

8. 財務	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。</li> <li>・予算の編成は、法人組織の経理部で予算枠を示して、予算単位で事業計画と予算案を策定している。</li> <li>・予算の執行にあたっては事業執行部署と財務経理部でチェックする体制を構築している。</li> <li>・法人寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。</li> <li>・法人において財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集において、定員まで学生数を増やすために、広報活動に一層の重点を置く。また、高等学校との接続のための単位連携講座、小中学生向けIT教室の運営など、地元企業団体とも連携しながら実現する。</li> <li>・非18歳人口をターゲットとしたキャリア形成教育プログラムを企画・実施する。</li> </ul>

以上